

事業成果報告書

1. 個人または団体名(団体の場合は代表者名も記入)	
高橋 幸	(代表者名:)
2. 研究または活動のテーマ(課題名)	
2000 年代日本におけるジェンダーバックラッシュ以降の、「若い女性」のフェミニズムに対する態度の実態と動向について	
3. 助成額	
400,000	円
4. 実施期間	
2019 年 7 月	～ 2020 年 6 月
5. 実施状況	
<p>2019 年 7 月に出版助成の決定を報告し、今後の予定についての打ち合わせを行う。</p> <p>2019 年 7 月～11 月に、研究会等を通して数人の研究者にコメントをもらい最後の推敲を行う。</p> <p>2020 年 3 月に脱稿。</p> <p>2020 年 4 月～5 月に 2 回の校正を郵送で行う。装丁の打ち合わせ。</p> <p>2020 年 6 月初旬に「おわりに」や「コラム」等の部分的な校正を行う。装丁の決定。</p> <p>2020 年 6 月 30 日に出版。</p>	
6. 事業成果と自己評価	
<p>研究助成により、これまでの研究成果をまとめた『フェミニズムはもういない、と彼女は言うけれど——ポストフェミニズムと「女らしさ」のゆくえ』(2020、晃洋書房)を出版することができました。</p> <p>本書は、ネオリベラリズムの進展のただなかで登場してきた「フェミニズムは終わった」という主張を持つポストフェミニズムについて論じたものです。英米を中心とした英語圏の研究動向を整理して議論し、現代日本をポストフェミニズムという観点から社会的に分析しました。</p> <p>フェミニズムの運動や連帯を無効化しようとする現在の言説には、バックラッシュを形成した保守派イデオロギーに基づくアンチフェミニズム的主張だけでなく、新しく登場してきたポストフェミニズム的主張が複雑に絡み合っています。本書を通して、「ポストフェミニズム的主張」の具体的様相を明らかにすることができました。</p> <p>本研究の目的であった「バックラッシュ後に見られるようになった若い女性たちのフェ</p>	

ミニズムに対する態度の解明」という課題は、ポストフェミニズムという一つの理念型を示すという形で達成することができました。ポストフェミニズム的主張がどのような層にどれくらい広がっているのかという実態については、今後ある程度規模の大きな調査が必要になってくる点であると考えています。

7. 提出成果物

高橋幸著『もうフェミニズムは必要ないと彼女は言うけれど：ポストフェミニズムと「女らしさ」の行方』(2020、晃洋書房)を提出しました。

